

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	良く なっている			
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・衣料品の販売が上向いている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・競合店3店の売上見通しを見ると、どの店も3か月前の6月よりも、やや良い状況である。全店共に3か月連続して入店客数が前年実績を上回っている。本店の客単価は非食品が97.5%、食品が105.4%となっている。特に食品では、5,000円以上購入するとプラス1,000円分が無料になるというキャンペーンが好評で、売上が前年比138%となった。衣料品は前年比101.5%、食料品が前年比119%で、食品がけん引した。家庭用品は前年比93%である。インバウンドについては前年比209%と、相変わらず良い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・生鮮食品の精肉や青果の相場高が客単価を押し上げている。食料品の売上は、すこぶる好調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・値上げが売上の増加に寄与している。生鮮品を除けば販売量の増加が顕著である。その生鮮品も相場高で売上は堅調である。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・現在、売上高も利益も前年比プラスで推移しており、上半期全体でもみても順調である。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・食パン、菓子パン、和菓子、洋菓子、デリカのトータルの販売量で3か月前と比べて4%の伸び、前月の8月と比べても1.5%の伸びである。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・8月末に店舗をリニューアルした結果、従来動いていなかったヤングミセス層においても若干の動きがみられるようになった。提案さえきちんとしてくれば、ある程度の反応は出てくるようだ。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・消費税増税から時間も経ち、秋冬になったため客の購買意欲が徐々に上がってきた。単価も来店者数も高い水準で推移している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休もあり、前年や前月と比べても来客数が増えた。客単価も悪くなかったため、景気は上向きである。
		スナック（経営者）	それ以外	・近隣の同業者の売上が、9月は良好に推移していると聞いた。常連からは、夏のボーナスが増えた話を良く聞く。
		居酒屋（経営者）	来客数の動き	・郷土料理などを扱っている店舗は、県外からの客が増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・9月の大型連休もあり、宿泊・レストランともに盛況で、売上が前年比で大幅にアップした。逆に宴会は、企業が休みの日が多く、前年より少なかった。
		都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・宴会利用の客は増えている。婚礼の件数は相変わらず減っているが、宿泊とレストラン利用の客は増えている。単価はあまり上がってないが、良い傾向である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の大型連休の効果で、国内・海外共に前年を大きく上回った。特に国内の近場への旅行は、好天の影響もあり、直近の予約が多かった。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・観光関連の事業者から、観光客向けWi-Fiの設置に関する要望が増えている。海外からの観光客が増えたことが原因だ。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・今年度に入った当初は厳しい状況で動いていたが、ここきて上期は予定通り、若干上向きの販売量を確保することができた。3か月前からみると売上は伸びている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客は消費しようという気持ちはあるが、なかなか購買までには至らない。単価が低いものでさえ慎重に買物する傾向があり、非常に厳しい状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順で来客数が伸び悩んでいるが、客単価は増加している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順で野菜や魚などの価格が高騰している。9月の大型連休の前後は、客の様子がかなりシビアになり、売上が停滞している。

一般小売店〔鮮魚〕(店員)	それ以外	・今年台風など天候の影響で漁の回数が少なく魚も少ないが、魚価もあまり上がっていない。これで商売になっているのが不思議だが、元々の売上が減っているので慣れていいのかもわからない。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・催事が多く、全店、催事場がにぎわった。特に女性社員が企画した催事は、従来の客層と違って、若い女性の平日と夕方の来場が目立った。また、物産催事で発行したふるさと割お買物券が好評で、購入した客のほとんどが、使用期間中に券を利用した。店頭では、貴金属や婦人雑貨、紳士雑貨、紳士衣料は、回復の兆しがみられるが、婦人衣料の購買は伸びない。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今月は気温が前年に比べて低めに推移したこともあり、秋物衣料も出足は好調に推移した。また、地元の球団がリーグ優勝したので、その優勝セールの効果が出て、前年に比べて売上が大幅な増となった。ただ、景気そのものが良くなって押し上げたわけではない。客単価が下がっており、高額品の動きもやや鈍ってきている。
百貨店(営業統括)	単価の動き	・9月に入り気候・気温も安定してきて、婦人客の来店頻度が高まってきている。ただし、単価が上がらず売上増にはつながっていない。
百貨店(企画)	販売量の動き	・食料品は改装効果もあり順調に推移しているが、それ以外のカテゴリーは全般的に不振が続いている。
百貨店(店舗事業計画部)	来客数の動き	・9月の大型連休はプロ野球のリーグ優勝セールとも重なり、ゴールデンウィークに近い入店客数で盛り上がったが、連休明けは閑散としている。気温低下が進まないこともあり、秋冬物への反応が鈍い。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・秋物の立ち上がりで衣替えが例年より早く動き出している。ただ、客は慎重に吟味して買い物をする姿勢が目立ち、買物に対してはかなり慎重になっている。購買を勧めても「考えておく」と言って買わない客も多い。
スーパー(店長)	販売量の動き	・悪天候による野菜の高騰のため、販売量自体は少ないが、野菜の売上が良くなっている。
スーパー(店長)	単価の動き	・食料品を中心に値上がりして好調を維持している。今月は9月の大型連休があり比較的好調に推移している。
スーパー(店長)	来客数の動き	・食料品は、天候不順で青果が相場高となっており、前年比115%で推移している。一般食品は米が相場安となっている。また、衣料品は前年比75%で大変苦戦している。夏物衣料の処分している。
スーパー(総務担当)	お客様の様子	・売上は前年を上回っているが、客の様子をみると、価格をとてども気にして買物をしている。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・秋冬物への移行の時期で、例年に比べ商品の動きが良い。台風などの影響で野菜が高値だが安定して売れている。
コンビニ(経営者)	お客様の様子	・衝動買いの客狙いでいるような商品をレジ周りに置いているが、客は必要なもの以外はなかなか買おうとしない。無駄な買物はしないという態度が続いている。
コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・午前から夕方までの客数はやや伸びているが、客単価はまだ前年に届いていない。夕方から夜にかけては客数が前年より伸び悩み、客単価も低い。全体の売上としては98%を推移している。
衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・天候のせいにしたくはないが、比較的雨の日が多く、来街者数、来店者数がともに少なかった。
衣料品専門店(店員)	販売量の動き	・円安の影響で商品単価が1~2割上がっている。消費税が8%になったときはあまり影響はなかったが、今回の値上がりでは、客の購入枚数が減った。
衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・ファッション業界は気候に大きく左右される。9月は残暑が少なく、スムーズに秋の気候になったことが幸いし、秋物がすぐに動くようになった。高額商品も動いている。
乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・新車販売台数が伸びない。既存の客の買換え需要が主であり、新規客が来店することはほとんどない。
その他専門店〔コーヒー豆〕(経営者)	お客様の様子	・夏のギフト物の需要は、客の1人当たり購入量、購入単価ともに前年と比べてほとんど横ばいという結果になった。

	その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕(統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は8月の底値を9月も継続している。本地域は、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に指定された施設があり、観光客が増加している。燃料油の小売価格が安値安定しているため、自動車を利用しての訪問客が多かった。しかし、高額カーケア商品の売上は前年並みとなっている。
	ドラッグストア (部長)	販売量の動き	・3か月前と同様、9月の売上も計画値を若干上回って推移している。引き続き、外国人観光客の来店が多い。9月に入り、比較的気温が低く、秋冬の季節品が好調なことも要因と考えている。
	その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 (従業員)	販売量の動き	・9月の大型連休で商品の動きが良くなると期待していたが、販売のピークが最後の2日間に偏ったため、前年より売上は落ちた。休日が分散されたほうが売上は多くなる。
	その他小売の動 向を把握できる 者〔ショッピング センター〕 (統括者)	販売量の動き	・8月から発行されているプレミアム付商品券の効果があり、既存店の販売量が増えている。インバウンドも好調に推移しており、売上増となった。年内はこのトレンドは維持できるのではないかと考える。
	その他小売 〔ショッピング センター〕(広 報担当)	来客数の動き	・気温の低下にともない、秋物の衣料品の動きが堅調に推移している。全体では、地元プロ野球チームのリーグ優勝セールもあり前年を超える進捗である。しかし根本的な消費の動きは、相変わらず低調である。
	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・9月の大型連休の来客が予想以上だった。
	都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊部門とレストラン部門の客単価は依然上昇しているものの、上がり幅は小さい。
	都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・インバウンドが売上の約3割を占めるほど圧倒的なシェアとなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・9月は残暑も少なく低温で、タクシーの利用客数はやや減少している。9月の大型連休は昼間は観光客や催し物で良かったが、夜の繁華街は人が減った。
	タクシー運転手	お客様の様子	・月末にかけてタクシー利用は少しは増えたようであるが、初旬と中旬はかなり悪かったので、トータルで見るとあまり変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・9月の大型連休の期間はマイカー利用が多く、あまり稼働は良くなかった。それ以外の期間は、企業の利用や予約が大変良く、稼働率が上がった。
	競輪場(職員)	販売量の動き	・発売金額が横ばいの状況である。
	美容室(経営 者)	販売量の動き	・もう少し景気が良くなると期待していたが、なかなか回復しない。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・単価や販売量など、すべてが落ち込んでいる。もうすぐ消費税も上がるので、先が不安である。
	美容室(店長)	来客数の動き	・店を改装したので来客数が増えると期待したが、今までとあまり変化がない。ヘッドスパを始めてキャンペーン価格にしたため、少し売上が伸びた。
	設計事務所(代 表)	来客数の動き	・客が思ったより増えていない。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・9月の大型連休にイベントを開催したが、ゴールデンウィークと同じくらいの客の来場があった。
	住宅販売会社 (代表)	競争相手の様子	・新築住宅だけではなく、中古住宅を購入してリフォームする人が徐々に増えている。競合他社の動きも少しずつ活発になっているので、今後上向きになっていく可能性がある。
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・客の購買力がやや落ちている。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・はっきりした理由は分からないが、ここ3か月の来客数が前年よりも約2割減になっている状況である。
	商店街(代表 者)	お客様の様子	・プレミアム付商品券の効果で、一時は売上の微増はみられたが、夏場以降、特に年配者や主婦層は生活必需品以外への消費意欲がまったくない。生活費の切り詰めで、精一杯のようだ。
	一般小売店 〔茶〕(販売・ 事務)	お客様の様子	・暑い日が続き、前年と比較しても来客数が減少している。客はまだ出費に慎重で、今必要なものだけを購入して「ついで買い」はしない。
	コンビニ(エリ ア担当)	お客様の様子	・以前は家族連れの客が多く見られたが、最近は独身の男性や女性が多くなっている。必要最小限の買物で済ます客が多く、「ついで買い」をする人は見られなくなった。買上点数も減っている。景気は良くなっていない。

		家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・台風以降、極端に客足が鈍ってきた。9月の大型連休も閑散とした状況が続いた。
		高級レストラン（専務）	単価の動き	・単価が安い物しか出なくなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・依然として外国人観光客の需要はおう盛だが、国内からの需要は減ってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入ってから、がたっと売上が落ちた。中国の経済不安による株価暴落で、消費者に心理的な影響がかなり出ているようで、財布のひもが固くなっている。また夜の繁華街の動きがかなり悪くなっており、タクシー業界でも売上がマイナスとなっている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約数では前年を上回る推移であったが、9月の大型連休は思ったように振るわなかった。火山の噴火の影響もあってキャンセルが多く、海外や県外の客数が前年より大幅なマイナスで、厳しい状態になっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・4月の介護報酬マイナス改定と8月からの一定所得者に対する2割自己負担開始に伴い、客単価が前年度から減少しており、今後も好転は見込めない。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今は転勤の時期であるので、生徒数はだんだん減ってきている。
	悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・すべて天候不順による悪影響である。長雨によって野菜はほとんどやられて、価格が高騰している。商品単価は上がるが、客数は減り、売上がかなり落ち込んでいる。かなり厳しい状況である。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・全体的に客の出足が鈍い。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電業界では、9月に入って8月の反動が出た。単価が高い大物商品の動きが、非常に悪くなっている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休が大きく響いた。当店のような割烹料亭は接待での利用が多いので、企業が休みにになると、かなりの痛手となる。月の3分の1が店休日のような状態で、非常に厳しかった。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品の原料の収穫期となった。生産が本格化し、販売も順調に推移している。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・発注が増えつつある。各取引先の業績が上向きになっているようだ。
		電気機械器具製造業（取締役）	競争相手の様子	・競合先を含め、引き合いが多くなっている。
		輸送業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・単価の高い商品の荷動きが多かった。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・仕事が増えているため、採用を積極的に進める方針の取引先が多い。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月は、原料不足で客に迷惑をかけている。取引先からの引き合いは、相変わらず強い。特に冷食メーカーは年末需要の生産に入っていることもあり、一段と要求が強い。居酒屋、スーパー関連も9月に入っても順調である。原料不足で工場生産はある程度落ちたが、仕入商品でカバーしているため、売上は計画を若干下回る程度である。
		農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・現状の動きに対して大きく変わる要因がない。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・全体の傾向は上昇機運だが、その中で一時的に停滞している状況である。今月は前年比で売上と受注件数がともに5%弱伸びているが、4～6月までは10%以上の伸びていた。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	それ以外	・受注はまあまあだった。5月よりギャラリーを開けて客の反応をみているが、9月の大型連休は客も多く、やや良い結果が出た。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・例年、下期の受注と売上が増えているが、今年は例年と大差ないとみている。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・客の購買意欲に変化はない。

	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・上半期の最後である9月末の官公庁の発注は、4本と少ない。例年、今の時期、多いときは12～13本の入札があるが、今年度はない。景気が良くなっていないといけない時期ではあるが、良くなっていないのが現状である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は半期の決算時期だが、荷動きが良くない。悪天候の影響で、農作物が不作だったため、段ボール類や印刷、チラシ類の荷動きがかなり悪い。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・特に変化はみられない。
	通信業（経理担当）	それ以外	・景気を下支えする好材料がみえてこないどころか、足を引っ張る出来事ばかりが目立っている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車の販売が伸び悩んでいる一方、雇用・所得環境は改善してきており、百貨店・スーパーなどの売上は持ち直し傾向にある。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業は全体的に人手不足の状態が続いており、受注量が増えても人員の確保が十分にできない。そのため、設備投資、売上高のアップにはつながらず、業況の改善までには至っていない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・株価の落ち込みが気になるが、実体面である数字の変化はない。マインド先行である。
	経営コンサルタント	それ以外	・9月中旬に有料のセミナーを実施した。50数名という参加でセミナーとしては一応成功した。しかし、内容は7月末に経済産業省が指針を改訂した「外国公務員贈賄防止」をテーマとしたもので、少し特殊だったため、参加企業は大手、海外取引のある企業に限定された。これをもって景気が上向きとは言えない。
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・免税店とその周辺のドラッグストア・コンビニエンスストアなどの売上が前年比150%以上と好調である。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・ホテル業の改修、新築など情報が増加している。外国人観光客やオリンピック需要も見込んだ投資案件は今後も増加する。官公庁からマイナンバー制度向け投資案件の引き合いもあり、電力、ガスの小売完全自由化に向けての相談、案件、引き合いも増加している。
やや悪くなっている	金融業（従業員）	それ以外	・8%という消費税のダメージがじわりじわり効いてきている。消費の状況については買い控えなどがあるようだ。
	金融業（営業）	取引先の様子	・従来は、製造業の国内回帰など景気の回復がみとれたが、現状では停滞の兆しがあり、雰囲気的にも現状維持が精一杯である。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地の主要産業である土木、建設、工事業については、例年に比べて公共工事の発注が少ない状況が続いており、経営者にとって、あまり良くない景況感が続いている。地域全体でも、プレミアム付商品券の特需などもほとんど効果がなく、景況感はあまり良くない。また、近年の株価の大幅な下落も心理的なマインド低下につながっている。
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・売上をけん引していた通信販売、化粧品関連の広告出稿が振るわなかったことに加えて、旅行商品も海外、国内共に低調で全体で前年80%にも届かない状況である。
	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・今月は台風の被害で、大変な状況になった。また、火山の噴火により観光客が減少しており、ホテル、タクシー、バスなどがキャンセルになって、かなり苦労しているという話を聞いている。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の委託でまちづくりの調査や計画、設計などを行うコンサルタント業務に携わっているのだが、市町村がその予算を確保していない状況である。国の交付金による地方創生の総合戦略策定に関する業務は7～8月までに発注されたが、その後、市町村の独自予算による業務は、福岡県内では1件だけであった。
	悪くなっている	その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き
雇用関連	良くなっている	-	-
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き ・求職者が減っている。それだけ仕事を選べる状況になってきた。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・当地区は引き続き中国からの観光船の客が多く、ホテルや商業施設などの買物客が多い状況が続いている。こうした状況がしばらく続きそうだ。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・6月以降、前年同期比で新規求人数が大幅に増え、新規求職者数は減少傾向にあることから、新規求人倍率、有効求人倍率共に大きく前年を上回っている。これは、景気が上向いて業績が好調であることを反映している。企業が人材確保に力を入れていることの表れである。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比1.9%の増加である。主要産業別にみると、製造業、運輸業、郵便業、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業、サービス業で増加し、建設業、医療、福祉で減少した。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年5～7月までの3か月と今年5～7月の3か月を比べると、今年が約500件増えている。一方、新規就職者も前年比で300人程度の増である。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数が増えず落ち着いている。求職者からの問い合わせなども減っており、動きがあまりない。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人依頼数が伸び悩んでいる。今期の初めは「直接雇用での採用が難航しているので、派遣を依頼したい」という案件が多かったが、ここ2～3か月はそういった案件が減り、繁忙期要員の依頼が増加傾向にある。企業が景気拡大を見込んで直接雇用に動いていたが、ここ数か月の景気動向から、直接雇用ではなく派遣で費用を流動化させようとしている実感がある。
	人材派遣会社 (営業)	雇用形態の様子	・派遣法改正の影響もあるが、直接雇用への比率は上昇している。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・株価が下落傾向になっている。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・中心市街地への人出や観光客数の多さをもても、景気は減退してない。3か月前と比べてそれほど変わらない。
	職業安定所 (職業紹介)	求人数の動き	・新規求人数及び有効求人数がわずかに減少している。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・労働者派遣法改正によるプラス効果などはまったくみえていない。
	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・相変わらず、企業の求人意欲はおう盛である。新卒に関しては、追加採用求人が出てきている。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き
悪くなっている	-	-	-